

地域プロジェクト成果報告書

「外国人の視点による観光情報の充実プロジェクト」

【背景・目的】

近年外国人観光客が増加し、個人旅行者も増加している中、最近の(国ごとの)傾向や嗜好なども踏まえた新たな視点で、インバウンド(日本人・外国人旅行者)の誘致を促進する対策が求められている。鹿部町を含む道南地域への観光を検討する日本人や外国人に、町の魅力を事前に十分してもらうために、SNSやHP、パンフレット情報を充実(改善)し、可能な限り多言語化するとともに、町での半日ないし1日の体験型観光プログラムを考案し、これらを町の温泉観光協会を通してPRしてもらう。

【概要】

- ①町の既存の観光情報を精査した後、実際に観光スポット等の現地調査を行い、結果を整理・分析する。
- ②調査・分析の結果を基に、町の協力を得ながら各プロジェクトを実施する。
- ③対象とする観光情報(HP/パンフレット)の外国語版(英語、中国語【簡体字】、韓国語)を作成する。
- ④作成した観光プログラム(案)のうち、可能なものについて町の協力を仰ぎ実際に体験(検証)する。
- ⑤各プロジェクトの完成品を町へ提出する。

【全体スケジュール】

10月	道南地方の観光動向調査。 JTB 北海道(函館支店)による、北海道及び道南地域におけるインバウンド観光客の動向やJTBの取り組みに関する講義。 渡島総合振興局による、北海道及び道南地域の観光の現状と課題、渡島総合振興局の取組に関する講義、及びプロジェクト対象自治体候補の紹介。 対象自治体を鹿部町に決定し、実施プロジェクトを具体的に検討。
11月	鹿部町について情報収集(鹿部町訪問) 既存情報の精査 プロジェクトの内容検討
12月	プロジェクト計画書(案)の作成
1月	プロジェクト計画書の作成 20日 地域プロジェクト中間発表
2月	活動なし
3月	活動なし

4 月	多言語化チーム パンフレットの多言語化開始	体験プログラムチーム 体験プログラム案作成
5 月	パンフレットの多言語化、作成 温泉ポスター、昆布パンフレット作成 SNSの更新開始	鹿部町側とのプログラム案の改善
6 月	パンフレットの多言語化、作成	プログラム案の改善 新しいプログラムの提案
7 月	パンフレットの多言語化、作成	留学生同行での体験プログラム案の実施
	18日 鹿部町側へ成果品の提出 21日 地域プロジェクトの最終成果発表	

【プロセスと成果】

〈多言語化チーム〉

- ・パンフレットの多言語化（英・中・韓）
- ・外国人向けの温泉ポスター作成（英語）、提出
- ・鹿部町特産「白口浜真昆布」パンフレット作成（日本語）、提出
- ・5月26日から毎週日曜日に鹿部町のSNS（Instagram）の更新による鹿部町の宣伝活動

〈体験プログラムチーム〉

- ・鹿部町に5回訪問し、体験プログラム案の実施とその改善点の把握。
- ・本学の留学生に同行してもらい、外国人の視点から意見を求めアンケート調査を実施。
- ・晴れ・雨の日の1日体験プランを鹿部町役場職員の方と決定。
- ・新しい体験プログラムの作成。
- ・鹿部稲荷神社例大祭に参加し、参加の継続決定。

【総括・反省】

鹿部町の魅力を外国人観光客に知ってもらうために、パンフレットの多言語化や体験観光プログラムの作成にあたって、話し合いを何度も重ね実行することができた。SNSを利用して鹿部町をアピールするという新たな取り組みもすることができ、魅力発信に貢献することができた。また、新たに体験観光プログラムの案を学生目線で提案することで、活動の幅を広げることができた。鹿部町の祭り（えびつぶ祭り・稲荷神社例大祭）に留学生と一緒に参加し、学生の視点から、また留学生の国際的な視点から鹿部町の魅力について考えることができた。新しく作成したプログラムの実施まで行うことができたならより充実したプロジェクトになったのではないかという反省点もあった。

【地域からの評価】

パンフレットの多言語化でインバウンド向けの情報が充実したというコメントを得た。留学生による外国人の視点からのアンケートで祭りが高評価を得ていたことが結果に出ておりそれを今後生かしていきたいというコメントを得た。今後稲荷神社例大祭で学生とつながりを持っていきたいとの意向が示された。

【メンバー一覧】

教員：松田教男

学生：安部菜織、石川祐香、武田萌、村上永理花、後藤吉智、今玲香、酒井香菜子、丹優夏、桔梗めぐみ、鈴木絵実理

【活動の写真】



(留学生と稲荷神社例大祭に参加する様子)



(鹿部町側と打ち合わせをする様子)